

その先にあるもの

そして、3年生、もう甲乙つけられません。審査にお招きしていただいているにもかかわらず、このような話は申し訳ないんですが、もう1組から4組までどのクラスも本当に最優秀賞です。

こういう曲、1年生にも2年生にも当てはまることですが、合唱をつくっていくとき、例えば、こういうメロディだね、こういうハーモニー、こういうリズムだね、このくらいのテンポ、速さだね、いろんなことを考えて、いろんな要素をつくり上げていきます。そして、一つの合唱にしますが、その先にあるものは何なのかということが、一番の決め手です。その先にあるものは、この合唱はいったい何を伝えたいのか、それには、歌詞の内容と、その曲がつけられた背景とか、それから今生きている自分の思いとか、様々なものが絡（から）み合って、そういったものが、人の心を揺さぶる合唱につながっていくのだと思います。

そういう意味で、3年生の歌詞の内容というのは、非常にどのクラスの内容も深いものがありますよね。そして、おそらく3年生のみなさん、様々な悩み、これから将来のこと、今生きていること、今学級のこと、友達のこと、たくさん悩みがあると思います。こういった悩みが、歌詞の中身とリンクしていく、それが人の心を打つんだと思います。

そういう意味で、もちろんハーモニーもすばらしい、音程もりっぱ、でも、何か訴える力が足りないという合唱と、もちろん最低のハーモニーとか、音程とかいうものはクリアした上で、このクラスの合唱で心の震えが止まらないとか、その違いは何なのかということ、これからの課題にさせていただければと思います。課題と言っても、かなりクリアしています。みなさん本当にすばらしい合唱をありがとうございました。

学校にいたときに、よく3つのCという言葉を使っていました。まず一つめ、チャンスですね。こういう合唱の機会が再びよみがえってきた、戻ってきた、このチャンス、それに全力で取り組んできたみなさん、本当にすばらしいですね。

そして、チェンジ、変わってきた人たちがたくさんいたと思います。ああもう、今日は帰りたいなあ、うわあ、今日も練習かあ、朝早く行かなければならないなあ。ところが、やってどんどん変わっていく自分に気がついたと思います。おう何か合唱になってきた、ハモッってきた、おう何かこの曲、好きになってきた、ああ何か、あいつもうまくなっている、ああ何かソプラノもいい、いろんな意味でチェンジしてきた人がたくさんいたと思います。ぜひ、この思いをもって、さらに次の段階へとチャレンジしてください。

本当にすばらしい時間をありがとうございました。以上で、講評とさせていただきます。ありがとうございました。